

2. 中学校社会科における指導事例

公民的分野「国民の生活と政府の役割」

1. 単元の目標

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。
- ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。	<ul style="list-style-type: none">・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3. 単元における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント

(1) 現実の社会的事象を教材化し取り上げること

単元全体にわたって、日本において現実に生じている社会的事象や現時点で予測されている未来の日本社会の状況を教材化し、持続可能性をキーワードとして考察、構想している。このことにより、社会で起きている事柄に切実感をもって考察、構想できるようにしている。

(2) 税務署の職員に生徒の提案を講評してもらうこと

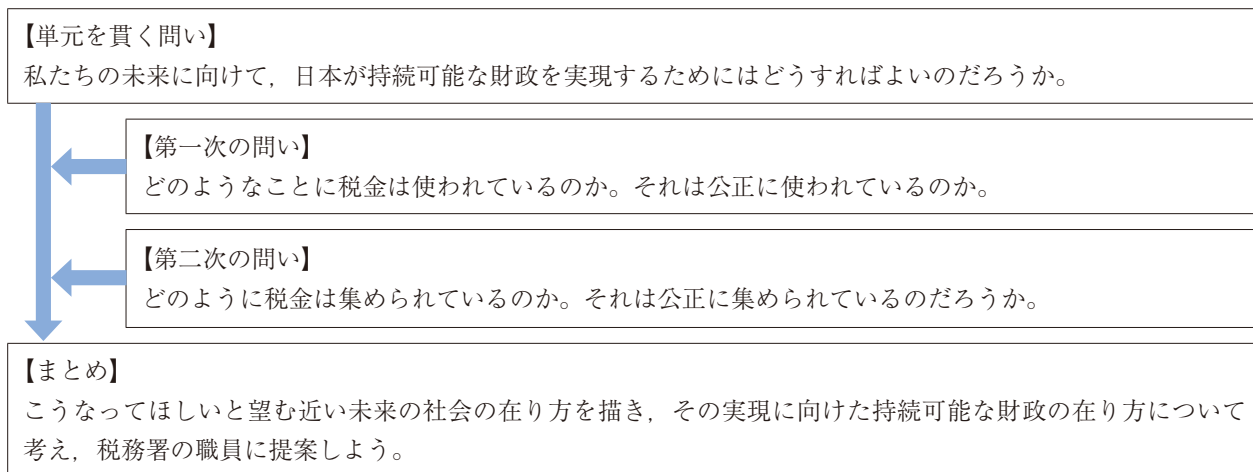
単元のまとめにおいて、生徒が考察、構想したことを税務署の職員に提案する。そして、生徒の提案に対して、実際に取り組まれていることや検討されていること、さらに検討する価値のあることなどの視点で講評をしてもらう。生徒にとって、専門家に価値付けてもらったり、課題を見いだしてもらったりすることは、授業終了後も社会を見つめ続け、主体的に社会に関わろうとする態度の形成につながる重要な機会となる。

4. 指導計画（全 11 時間）


(1) 単元の指導計画

単元の導入「日本の財政が抱える課題」……………	(2 時間)
第一次「私たちの未来に向けて、持続可能な財政を実現するために①歳出」……………	(5 時間)
第二次「私たちの未来に向けて、持続可能な財政を実現するために②歳入」……………	(3 時間)
単元のまとめ「私たちの未来に向けて、持続可能な財政を実現するために」……………	(1 時間)

(2) 単元における問いの構造



(3) 指導の展開例

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
導入	<p>【ねらい】 財政の役割を大まかに理解させた後、単元を貫く問い「私たちの未来に向けて、日本が持続可能な財政を実現するためにはどうすればよいのだろうか」を見いださせる。そして、現時点でのこの問いに対する答えを考えさせたり、この問いの解決に役立ちそうな情報をあげさせたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p> <p>○通学路や家庭の中で税金が関わっている物事を挙げる。 ・警察署 ・消防署 ・学校 ・ゴミの処理</p> <p>① 新聞記事から、財政の役割について考えてみよう。</p> <p>・ガソリン補助金に関する記事から、景気の調整について調べる。 ・成長戦略分野への重点投資に関する記事から資源配分の調整、景気の調整について調べる。 ・奨学金制での拡充（若者への家賃補助）に関する記事から、所得の再配分について調べる。</p> <p>○財政の役割について説明を聞き、理解する。 ・市場の働きに委ねることが難しい場合がある。 ・資源配分の調整以外に所得の再配分と景気（変動）の調整がある。</p>	<p>・町並みが描かれている絵の中から、税金が使われている部分を探す。</p>  <p>・市場の働きに委ねることが難しい社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、消費者の保護など、国民生活と福祉の向上が政府の役割であることを理解させる。</p> <p>☆市場の働きに委ねることが難しい諸問題があることと、財政の役割を大まかに理解している。【知・技】</p>

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
導入	<p>○単元を通して活用する資料を基に、国の歳入と歳出の項目、税金の種類、社会保障などの概要を理解する。</p> <p>② 国の歳入と歳出のグラフなど日本の財政に関する資料を見て、日本の財政の特色を読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出が税収を上回っている。 ・公債金や国債費って何だろうか。 ・現在約 1,000 兆円の借金があり、それが増えていくとはどういうことなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国の歳入と歳出」や「税金の種類」、「国債残高の推移」、「社会保障制度の概要」などの資料から日本の財政の現状を理解させた後、「日本の財政はこのままでよいのだろうか」という思いをもたせ、単元を貫く問いへとつなげる。 <p>☆諸資料を読み取り、日本の財政の現状を理解している。【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政学習動画「日本の『財政』を考えよう」（財務省）で確認してもよい。
	<p>【単元を貫く問い】 私たちの未来に向けて、日本が持続可能な財政を実現するためにはどうすればよいのだろうか。 (振り返りシート)</p> <p>○現段階での単元を貫く問いへの答えを考え、共有する中で、見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国債の発行を少なくする必要があるため、国債の発行理由や現状について調べる。 ・国の仕事を減らす必要があるため、歳出の無駄や民間に任せられる仕事はないかということ調べる。 ・税の種類や税率を見直す必要があるため、税の種類や税率などについて調べる。 	<p>☆単元を貫く問いの解決に向けて、方法の検討や情報の収集などについて見通しを立てている。【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りシート」が活用できる。 ・歳入と歳出の両面から考察する必要性に気付かせる。また、既に学習している、大きな政府と小さな政府、規制緩和にも触れる。 ・単元の最後に、自分たちの考察、構想したことを税務署の職員に提案することを伝え、学習意欲を高める。
第一次	<p>【ねらい】 市場の働きに委ねることが難しい諸問題への理解を深めながら、諸資料から現代社会の現状や現時点で予測されているこれからの社会についての情報を読み取らせ、日本の歳出について、使い道の公正さや今後の在り方などを多面的・多角的に考察させる。</p>	
	<p>【第一次の問い】 どのようなことに税金は使われているのか。それは公正に使われているのか。</p>	
	<p>○日本経済がおかれている現状を諸資料から読み取りながら、政府が景気の安定を図る財政政策について理解する。</p> <p>③ どうして一人当たり 10 万円の特別定額給付金が配られたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、「振り返りシート」に第一次の問いへの答えを自分ごととして書き溜めていく。または、第一次が終わった時点で記入することも考えられる。 <p>☆日本経済の状況と財政政策について理解している。【知・技】</p>
<p>○循環型社会の実現に向けて、これまでの環境保全対策を理解するとともに、今後の財政の在り方について、経済成長も視野に入れながら地球環境の持続可能性という視点から考察し、理解する。</p> <p>④ カーボンニュートラル・脱炭素社会と経済成長を両立させるために、財政はどのようなことができるだろうか。</p>	<p>☆カーボンニュートラル・脱炭素社会を目指す中で経済成長も視野に入れながら財政としてどのようなことができるかについて、地球環境の持続可能性という視点から考察し、理解している。【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料として、「グリーン成長戦略」（経済産業省）を活用することなどが考えられる。 	
<p>○国や地方公共団体が消費者政策を推進する役割を担っていることを理解する。そして、自立した消費者になることが大切なことに気付く。</p>	<p>☆国や地方公共団体の消費者政策を具体的な事例から理解している。【知・技】</p>	

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第一次	⑤ 消費者を守るために、なぜ法律の整備や消費者庁などの組織が作られているのだろうか。	・薬害や商品偽装などの事例を挙げ、市場における売り手の企業と買い手の消費者（家計）の関係について考察させることにより、商品についての知識に差があるなど、対等な関係ではないことを理解させることなどが考えられる。
	○日本の社会保障制度について、自助、公助、共助の視点も交えながら理解を深める。 ⑥ 歳出の3分の1以上を占める社会保障関係費とはどのような費用なのだろうか。	☆社会保障制度について、自助、公助、共助の視点も交えて理解している。【知・技】
	○社会保障制度を持続可能な制度にするためにはどうすればよいのかについて、社会保障制度と社会の現状を表す資料を基に、効率と公正、希少性や持続可能性に着目して多面的・多角的に考察し、判断する。 ⑦ 人生100年時代、社会保障制度を維持するためには、どうすればよいのだろうか。	☆社会保障制度や少子高齢社会についての諸資料と学習したことなどを根拠に、多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】 ・保険料や消費税率を上げるなどの税金の負担を引き上げる等、歳入に関わる考えが出ることも想定されるが、第一次では社会保障の給付をいかにするかという視点からまとめる。 ・受益と負担のバランス、世代間公平、大きな政府と小さな政府の考え方にも着目させる。 ・身近にいる納税者である家族や教師に自分の考えを伝え、アドバイスや感想をもらうことも考えられる。 ☆市場の働きに委ねることが難しい社会資本の整備などについて、それらの意義を理解している。【知・技】 ☆第一次の問いに対して、効率と公正、希少性や持続可能性などに着目して、考察、構想し、表現している。【思・判・表】
第二次	<p>【ねらい】 税制への理解を深めながら、現代社会の現状や現時点で予測されているこれからの社会についての諸資料を読み取り、日本の歳入について徴税の公正さや税制の今後の在り方などを多面的・多角的に考察させる。</p> <p>【第二次の問い】 どのように税金は集められているのか。それは公正に集められているのだろうか。</p> <p>※第二次の詳細は、「5. 授業の実際」参照。</p>	
まとめ	<p>【ねらい】 こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方を描き、その実現のために財政面において、持続可能性を踏まえながら考察、構想する。そして、他者との対話を重ね、合意形成しながらよりよい案にする。</p> <p>⑩ 【まとめ】 こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方を描き、その実現に向けた持続可能な財政の在り方について考え、税務署の職員に提案しよう。</p> <p>○これまで学習してきたことや毎時間、または毎次終了後、「振り返りシート」に書き溜めてきた第一次と第二次の問いへの自分の考えを生かし、こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方とその実現に向けた持続可能な財政の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ○税務署の職員に提案し、講評をいただく。</p> <p>☆これまでの学習を振り返りながら、第一次の問いと第二次の問いに対する自分の考えを活かし、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。【思・判・表】 ☆財政についての関心が高まり、納税者としての主体的に社会に関わろうとする様子が見られる。【態】</p>	

5. 授業の実際

(1) 単元の指導計画 (第二次・全3時間)

第8時「直接税と間接税」	(1時間)
第9時「新しい税金①」	(1時間)
第10時「新しい税金②」	(1時間)

(2) 指導の展開例

次	○主な学習活動 ・生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
第二次	<p>【ねらい】 税制への理解を深めながら、現代社会の現状や現時点で予測されているこれからの社会についての諸資料を読み取り、日本の歳入について徴税の公正さや税制の今後の在り方などを多面的・多角的に考察させる。</p>	
	<p>【第二次の問い】 どのように税金は集められているのか。それは公正に集められているのだろうか。</p>	
	<p>○直接税と間接税の性質(垂直的公平と水平的公平)と現代社会の現状を表す資料を見比べながら、効率と公正、持続可能性などに着目して、多面的・多角的に考察し、判断する。</p> <p>⑧ 日本の歳入を確保するために増税するとしたら、望ましいのは直接税か、それとも間接税か。</p> <p>〔直接税派の予想される考え〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接税の所得税や相続税はお金がある人が累進課税制度で多くの税を負担する垂直的公平をとって、所得の再分配の働きがあり、公平感が強いと思う。 ・間接税の消費税は、所得が少ない人や年金生活で所得が増えない人にとっては負担が大きくなり、世代間の公平が保てなくなると思うから増税しない方がよい。 ・間接税の消費税は、家計に直接与える影響が大きく、消費がおさえられ、景気がよくなるから増税しない方がよい。軽減税率も分かりにくい。 ・課税から逃げていた企業を取り締まり、所得税や法人税を払ってもらえば、今以上の税収が期待できる。 <p>〔間接税派の予想される考え〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間接税の消費税は広く社会全体から税を集めることができる水平的公平で、安定して効率よく集めることができると思う。使い道も歳出の中で最も割合が大きい社会保障関係に使われる。 ・直接税の所得税や相続税は累進課税制度がとられており、努力して稼いだ人が多くの税金を負担しなければならず、更に増税するとなると公正ではなくなると思う。 ・不安定になりやすい市場では、社会保障費は安定的に供給されることが難しいこともあるため、みんなで負担していくべきだと思う。 	<p>☆直接税と間接税、垂直的公平と水平的公平について大まかに理解している。【知・技】</p> <p>☆効率と公正、持続可能性などに着目して、諸資料や学習したこと等を根拠に、多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えさせた後、直接税派と間接税派に分かれて行う議論を通して、考え方を広げたり、深めたりできるようにする。 ・単元の導入で、「税金の種類」や「国の歳入と歳出」を一通り理解させておくことが本時の充実につながる。 ・直接税と間接税の性質の違いについて大まかに理解できているか、現代社会の現状を表す資料を正確に読み取れているか、それらを結び付けて考えをもつことができているか、効率と公正、持続可能性などに着目しているか、税の三原則(公平・中立・簡素)も踏まえているか等について、一人一人に対して丁寧に机間指導を行う。 ・日本は課税対象の所得が、一定の金額以上となった場合に、「超過した部分」にのみ高い税率で課税する超過累進課税制度をとっていることを押さえる。 ・世代間の公平にも触れる。 ・各国の社会情勢が異なるため、単純に比較できないことにも触れる。

次	<p>○主な学習活動</p> <p>・生徒の反応</p>	<p>・指導上の留意点</p> <p>☆評価規準【観点】</p>
第二次	<p>・外国と比べると日本は間接税の比率が低いから、もう少し高くして直接税とのバランスをとってもよいと思う。</p> <p>○一面的な見方で授業を終えないために、自分と反対の立場の意見の中で最も納得がいくものをその理由と共に書いて本時のまとめとする。</p> <p>・私は直接税派（間接税派）だが、間接税派（直接税派）の「○○○」という意見に納得した。</p>	<p>・自分と反対の立場の意見を吟味させることで、直接税と間接税の性質の違いへの理解を定着させるとともに、社会の状況に合わせ、公正さを考えて税金が設定されていることに気づかせる。</p> <p>・税金の種類や直間比率は時代と共に変化してきたことを伝え次時へとつなげる。</p>
	<p>○新しい税について、現代社会の現状や現時点で予測されているこれからの社会についての情報を踏まえながら、効率と公正、持続可能性などに着目して考察、構想し、表現する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>⑨ 少子高齢化，グローバル化，情報化，IoT，</p> <p>⑩ 地球温暖化，東京への一極集中など現代社会の一面や予想される近い未来をテーマに新しく税金をつくるとしたらどのような税がよいか。</p> </div> <p>[予想される考え]</p> <p>・日本は少子高齢社会だから、高齢者への税を増やすのはどうなのだろうか。</p> <p>・世界はグローバル化しているから、国境をまたぐ人や物の移動に今以上の税をかけたらどうだろうか。</p> <p>・歳入を増やすためには経済が成長した方がよいことを考えると、その税が高いのはマイナスだと思う。</p> <p>・人や物の移動に税をかけるよりも、情報化社会だから、SNS利用などに対して税をかけるようにしたらどうだろうか。</p> <p>・これからの社会を考えた時に、ロボットやドローンに税をかけるのもいいかもしれない。</p> <p>・地球温暖化を止めるために、原因となる二酸化炭素を排出する企業などに新しい税をかけるのもよいと思う。</p> <p>・これからは、カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を同じにしていく）だから、炭素税について、話し合いが進んでいる。</p> <p>・使い道がはっきりしていて納税者が納得のいく税金だったら公正だと思う。そのためには、様々な面から考えていく必要がある。</p> <p>○全体での学習終了後、個人で最初に考えた新しい税を見直し、よりよい税とする。</p> <p>○次時に向け、単元のまとめにおける自分の考えをつくる。具体的には、こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方を描き、その実現に向けた持続可能な財政の在り方について考察、構想する。</p>	<p>☆現代社会の一面と効率と公正、持続可能性に着目して、税の三原則（公平・中立・簡素）も踏まえながら、考察、構想し、表現している。【思・判・表】</p> <p>・現代社会の現状や現時点で予測されているこれからの社会についての情報を踏まえ、個人で考えた後、小集団で、効率と公正、持続可能性を視点として、税の三原則（公平・中立・簡素）も踏まえて議論させることを通して、税は公正さを保つために様々な視点から考察し設定されていることに気付かせる。</p> <p>・目的税と普通税、個人に対する税と企業に対する税などの視点で考察、構想させることも考えられる。</p> <p>・2時間扱いなので、生徒の実態に合わせて時間配分をするが、見通しとしては、1時間目は個人学習と小集団学習、2時間目は前時の続きとなる全体学習と次時へつながる単元を貫く問いの解決への個人学習とする。</p> <p>・現代社会の現状や予想される近い未来の様子を正確に踏まえているか、効率と公正、持続可能性などに着目して現代社会の見方・考え方を働かせているか、税の三原則（公平・中立・簡素）も踏まえているか等についても、一人一人に対して丁寧に机間指導を行う。</p> <p>・第一次で触れたカーボンニュートラル・脱炭素社会とつながるように展開するのが望ましい。</p> <p>・授業の終盤で、日本国憲法第30条〔納税の義務〕と第84条〔課税〕（租税法律主義）を確認する。</p> <p>☆財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。【知・技】</p> <p>☆第二次の問いに対して、効率と公正、持続可能性などに着目して、税の三原則も踏まえて考察、構想し、表現している。【思・判・表】</p> <p>・毎時間、または第二次終了後、「振り返りシート」に第二次の問いへの答えを自分ごととして書く。</p> <p>・身近にいる納税者である家族や教師に自分の考えを伝え、アドバイスや感想をもらうようにする。</p> <p>・これまでの学習を活用しながら、こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方とその実現に向けた持続可能な財政の在り方について、多面的・多角的に考察、構想できるように一人一人に対して丁寧に机間指導を行う。</p>

6. 実践するに当たっての留意点・配慮事項等

(1) 社会的事象の取扱い

- ・社会的事象の取扱いに当たっては、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりできるよう留意する。

(2) 小学校社会科、高等学校公民科との関連

- ・小学校社会科では「小学校学習指導要領 社会 第6学年2(1)イ(イ)」にあるように、政治の取組を捉える際の着目する点に「法令や予算との関わり」が挙げられている。既習事項として要点を確認し直すとともに、歳入と歳出の両面から深く捉え直すことにより今回の持続可能性を追究する学習につなげたい。
- ・高等学校公民科の共通必修科目である「公共」においても、持続可能性を視点として社会的事象を捉えたり、考察、構想したりすることが重視されている。その持続可能性を「財政」の側面から捉えていくことが本事例の特色である。特に「財政」については、生徒にとって知識、経験ともに少ないため、一つの視点から探究していく経験も必要であるが、高等学校で議論する際の視点の一つとなることも考えられるため、本事例での学習で得たことが定着するように、学習を進めていきたい。

7. 資料・ワークシート等

(1) 授業で使用するワークシート・資料等

- 第1時 振り返りシート
- 第2時資料 「財政学習動画 日本の『財政』を考えよう」(財務省)
<https://www.youtube.com/watch?v=USJl8zjMNH8>

(2) 参考となる Web ページ

① 財政に関わる資料

- 「もっと知りたい税のこと」(財務省)
https://www.mof.go.jp/tax_policy/publication/brochure/zeisei0306_pdf/index.html
- 「これからの日本のために財政を考える」(財務省)
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202110_kanryaku.pdf
- 「財政学習教材 日本の財政を考えよう」(財務省)
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202204_zeisei.pdf
- 「ハロー・タックス」(名古屋国税局)
<https://www.nta.go.jp/about/organization/nagoya/education/kyozai02/index.htm>

② 近い未来に関わる資料

- 「あなたが創る未来のデザイン」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/content/20211018-mxt_kouhou02-000010454_01.pdf
- 「わくわくドキドキ 2040 年の未来」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/content/20211018-mxt_kouhou02-000010454_02.pdf
- 「Society 5.0」(内閣府)
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
- 「2030 年代に実現したい未来の姿と実現に向けた工程イメージ」(総務省)
https://www.soumu.go.jp/main_content/000562473.pdf

③ カーボンニュートラル・脱炭素社会に関わる資料

- 「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(経済産業省)
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012-1.pdf>
- 「カーボンニュートラルの産業のイメージ」(経済産業省)
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012-4.pdf>
- 「カーボンニュートラルの広がり」(経済産業省)
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012-5.pdf>
- 「脱炭素ポータル」(環境省)
https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/
- 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
<https://green-innovation.nedo.go.jp/>

単元名：国民の生活と政府の役割

3年 組 番 氏名

【単元を貫く問い】		
知り たい こと 予 想 や 仮 説		
第 一 次	【第一次の問い】	
	どのようなことに税金は使われているのか	税金は公正に使われているのか 私たちはどのように関わっていけばよいか
第 二 次	【第二次の問い】	
	どのように税金は集められているのか	税金は公正に集められているのか 私たちはどのように関わっていけばよいか
ま と め	<p>こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうなってほしいと望む近い未来の社会の在り方を決めた理由と、その社会において日本が持続可能な財政を実現するための方法を歳入と歳出の両面から書きましょう。 ・自分の主張に説得力をもたせるように、学習したことを活かしましょう。その際、公正さを考えたり、自分と反対の考えをもつ人をイメージしたりして、より多くの人々が納得がいく主張を心がけましょう。また、自分が関われることや、やってみたいことも合わせて書いてみましょう。 	